

A qualitative study on knowledge, perception, and practice related to non-communicable diseases in relation to happiness among rural and urban residents in Bhutan

本研究は、ブータン人の生活習慣病リスクと幸福に関する包括的な質的研究である。2017年にブータンの農村部と都市部にて、18歳以上の男女、79人を対象に実施した。

調査データは、インタビュー、参加型観察、身体測定、写真記録によって収集された。

(結果の要約は右の図参照)

観察結果から、より実践的なNCD教育・予防プログラムの開発が必要であり、多世代、宗教権威者、教育現場、医療サービスを巻き込むことが効果的であることが示唆された。

